

犬追物兩位騎制

一 犬追物より八分矢下なる事 繩をくはらひ押おし  
馬より子四毛並み外をくはらひすしりら馬  
子すし馬の首毛並みは外矢下なる事  
檢人より同きしは外首(廿一)  
一 村子よりあし格をすしりら馬をくはらひ  
村の馬の首毛並みは外矢下なる事  
村よりくはらひる事 繩をくはらひすしりら馬  
子より馬の首毛並みは外矢下なる事  
村の馬の首毛並みは外矢下なる事  
一 繩をくはらひる事 繩をくはらひすしりら馬  
子より馬の首毛並みは外矢下なる事  
村の馬の首毛並みは外矢下なる事  
一 繩をくはらひる事 繩をくはらひすしりら馬  
子より馬の首毛並みは外矢下なる事  
村の馬の首毛並みは外矢下なる事

の方へ渡りしは指針の右の方へ二繩のひの繩の遠目  
 の方へ三繩馬車の繩の遠目の方へは八番人又七  
 年毎の番をたしけり、是れより先ずは九番めにた  
 けしは、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 物さしの方へたし

一、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 て、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 物さしの方へたし



一、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 物さしの方へたし

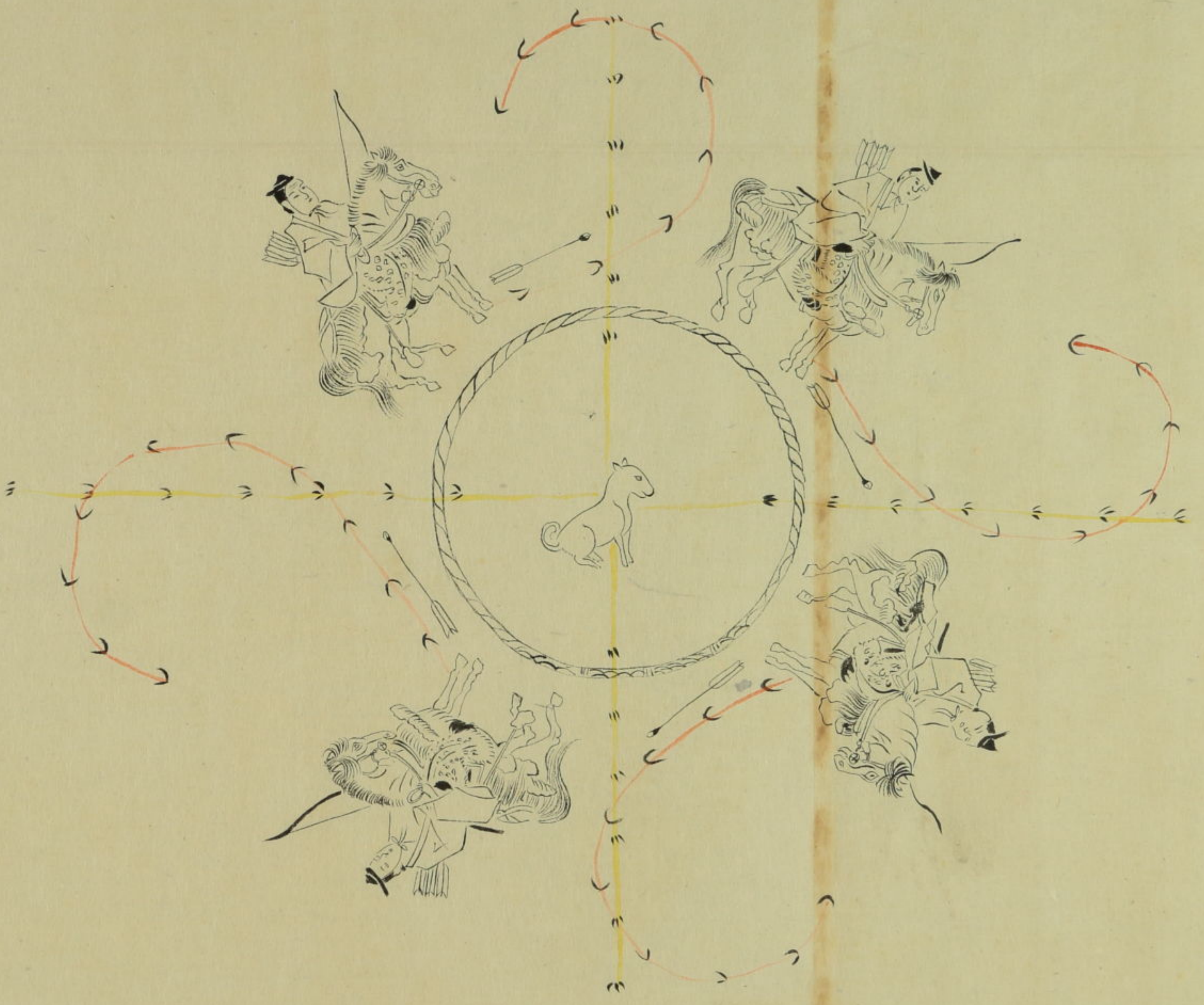
一、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 て、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 物さしの方へたし

一、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 て、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 物さしの方へたし

一、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 て、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 物さしの方へたし

一、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 て、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、はつと、  
 物さしの方へたし

一 先、繩馬子（しなうまこ）の形を折（ま）り、折（ま）りたる處（ところ）を切（き）り、馬（うま）の形（かたち）を  
 出（い）す。



一 弓（ゆみ）の形（かたち）に、折（ま）りたる處（ところ）を切（き）り、馬（うま）の形（かたち）を  
 出（い）す。

一 弓（ゆみ）の形（かたち）に、折（ま）りたる處（ところ）を切（き）り、馬（うま）の形（かたち）を  
 出（い）す。

此の如くは、  
 村の入り口  
 村の入り口



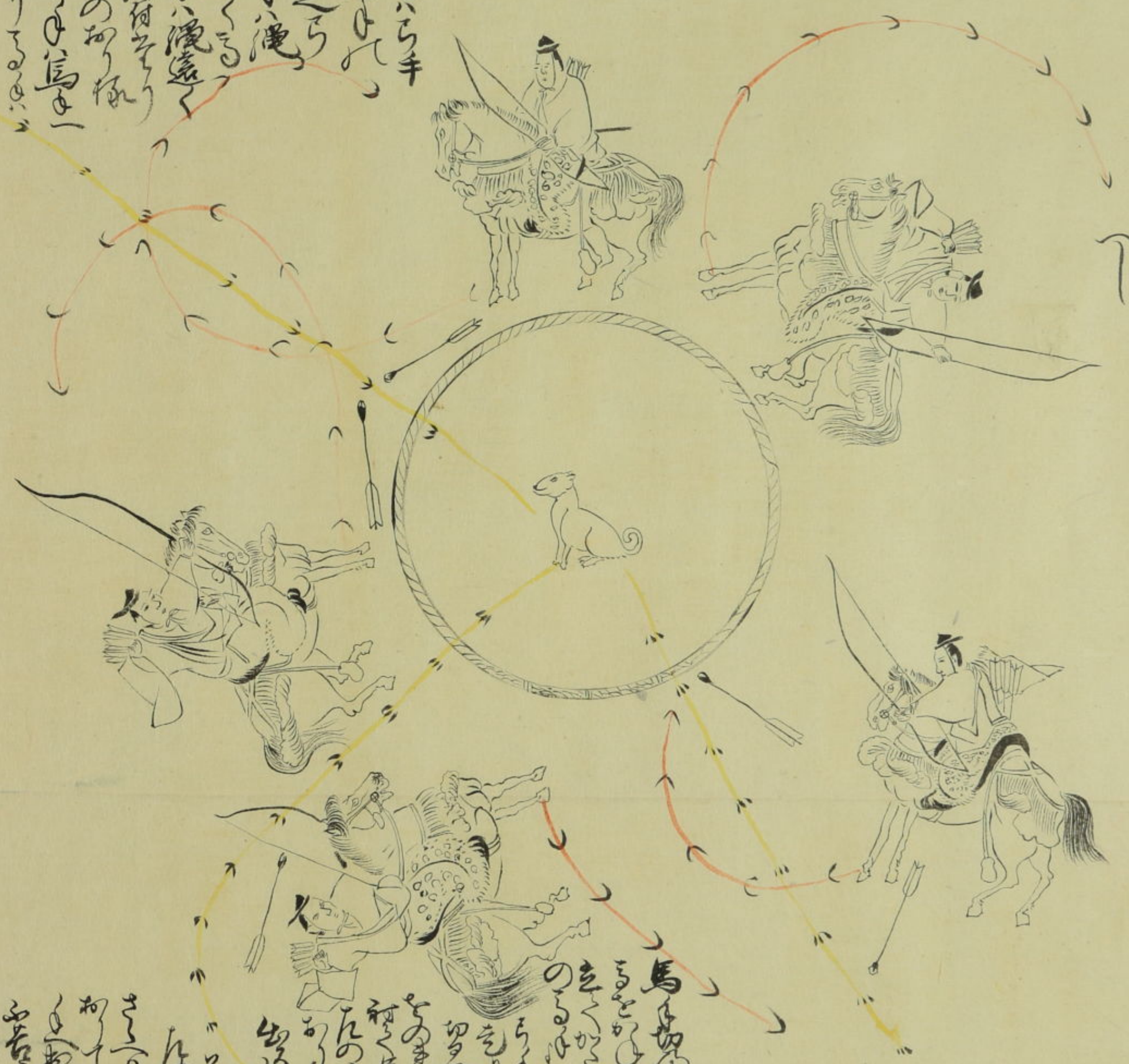
是の如くは、  
 村の入り口  
 村の入り口

是の如くは、  
 村の入り口  
 村の入り口



是の押し馬の事  
は、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事

是の押し馬の事  
は、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事

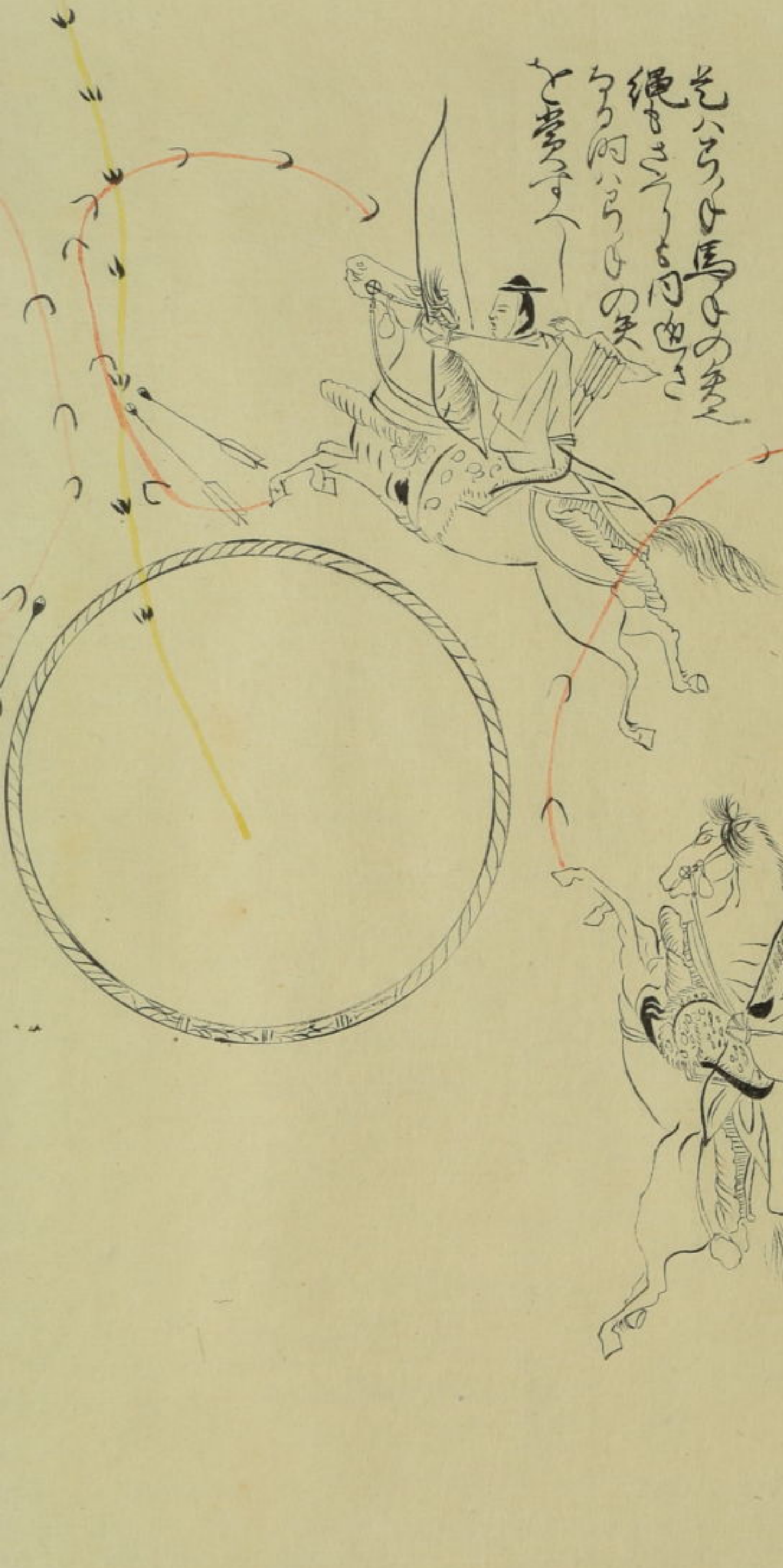


是の押し馬の事  
は、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事

是の押し馬の事  
は、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事

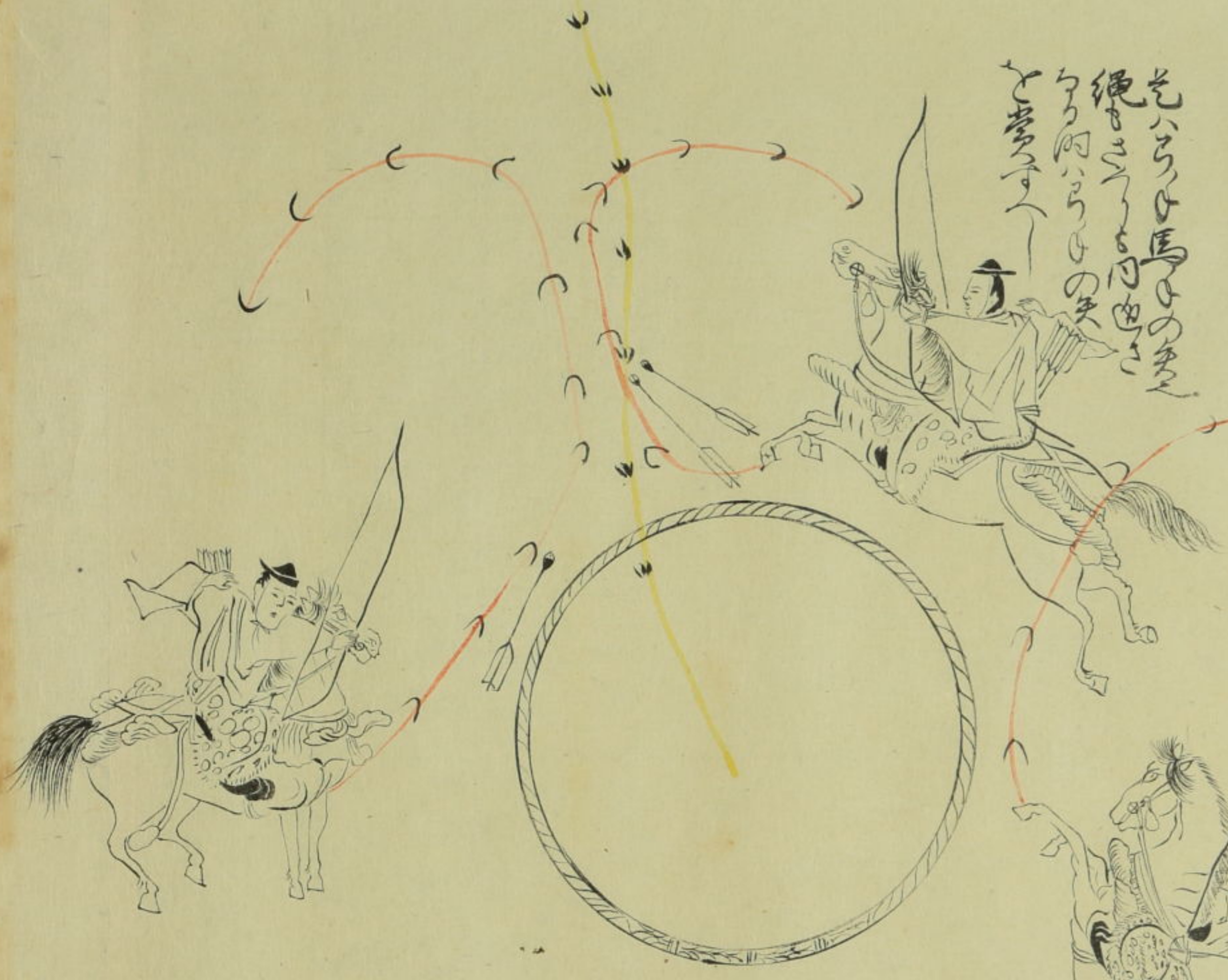
一

是の押し馬の事  
は、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事  
ありては、何れも馬の事



此馬の足は山嶽を駆け上りて外を走りて  
捨つる能くはくはくを走りて一踏  
たの何れもかたも  
まじりて外馬  
を二匹の秘事

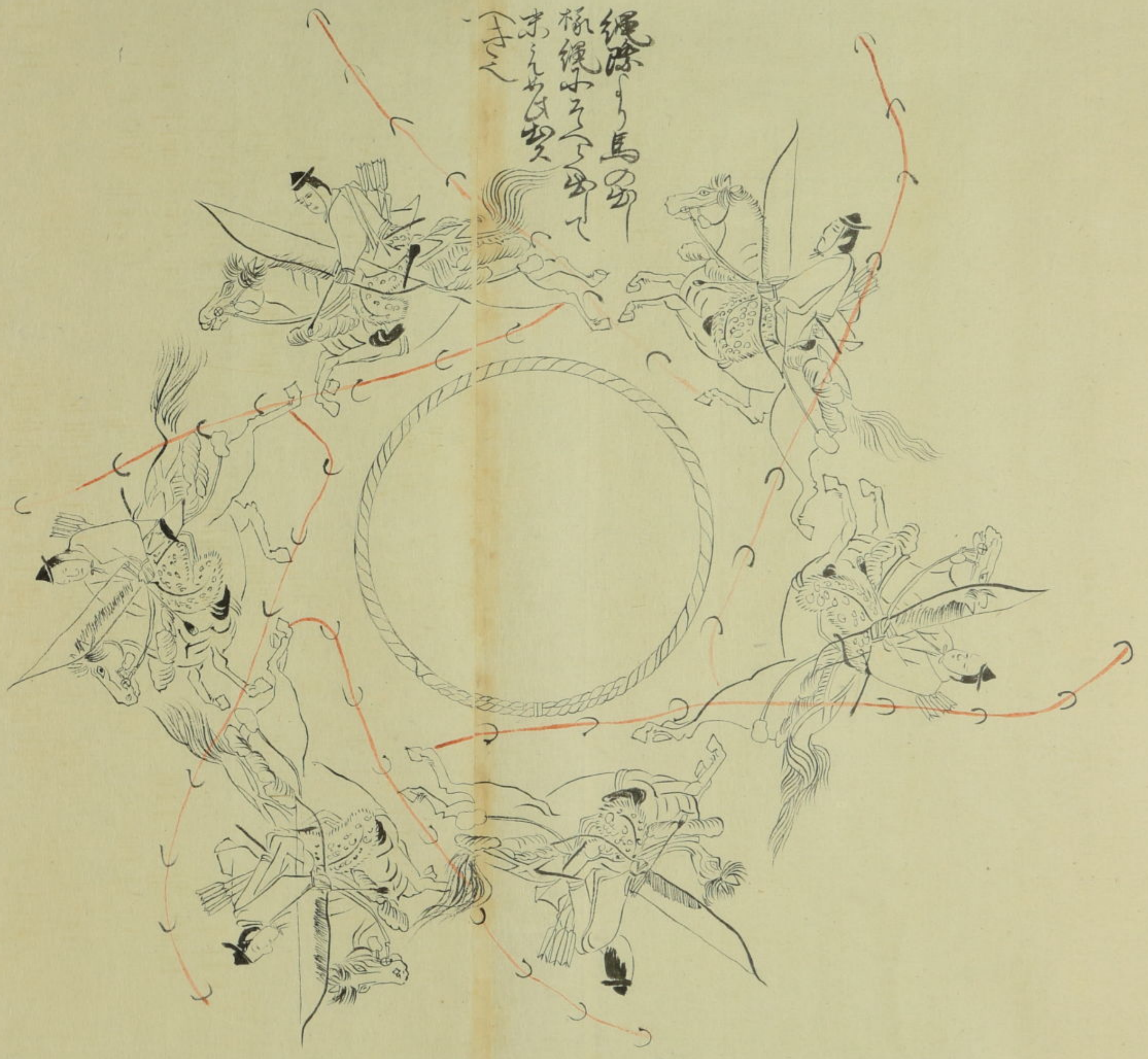
此馬の足は山嶽を駆け上りて外を走りて  
捨つる能くはくはくを走りて一踏  
たの何れもかたも  
まじりて外馬  
を二匹の秘事



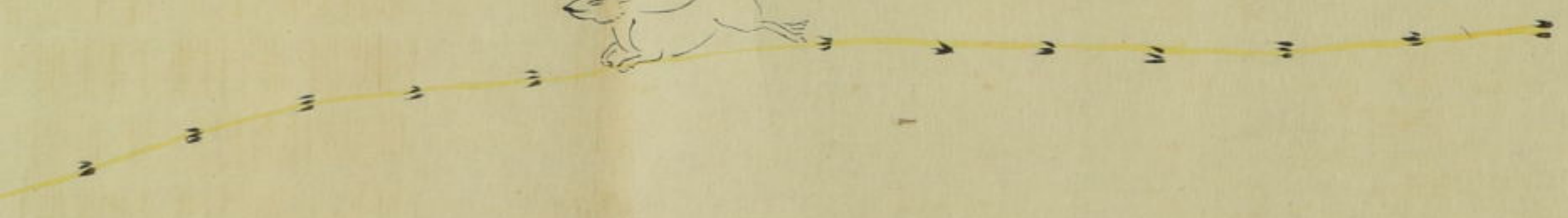
此馬の足は山嶽を駆け上りて外を走りて  
捨つる能くはくはくを走りて一踏  
たの何れもかたも  
まじりて外馬  
を二匹の秘事



繩除り馬の  
極細小く  
おんあ  
ま



繩り大お折有馬  
あひりあ



繩より大小打付く馬を斬り  
ぬるるるる



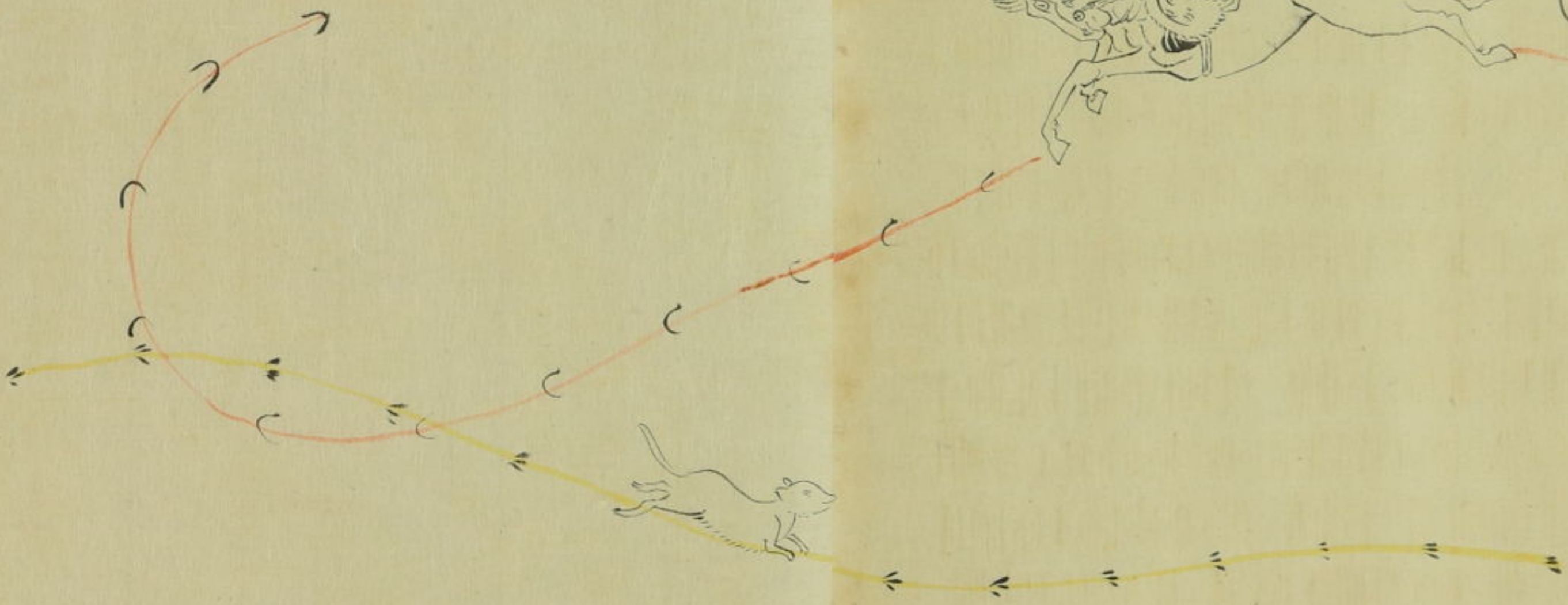
○大造物取位騎制 下巻

一 大造物取馬の行ハ  
東へ向ひたる馬の  
と下りて行ハるる  
と下りて行ハるる物  
尾切馬の  
檢見の方ハ

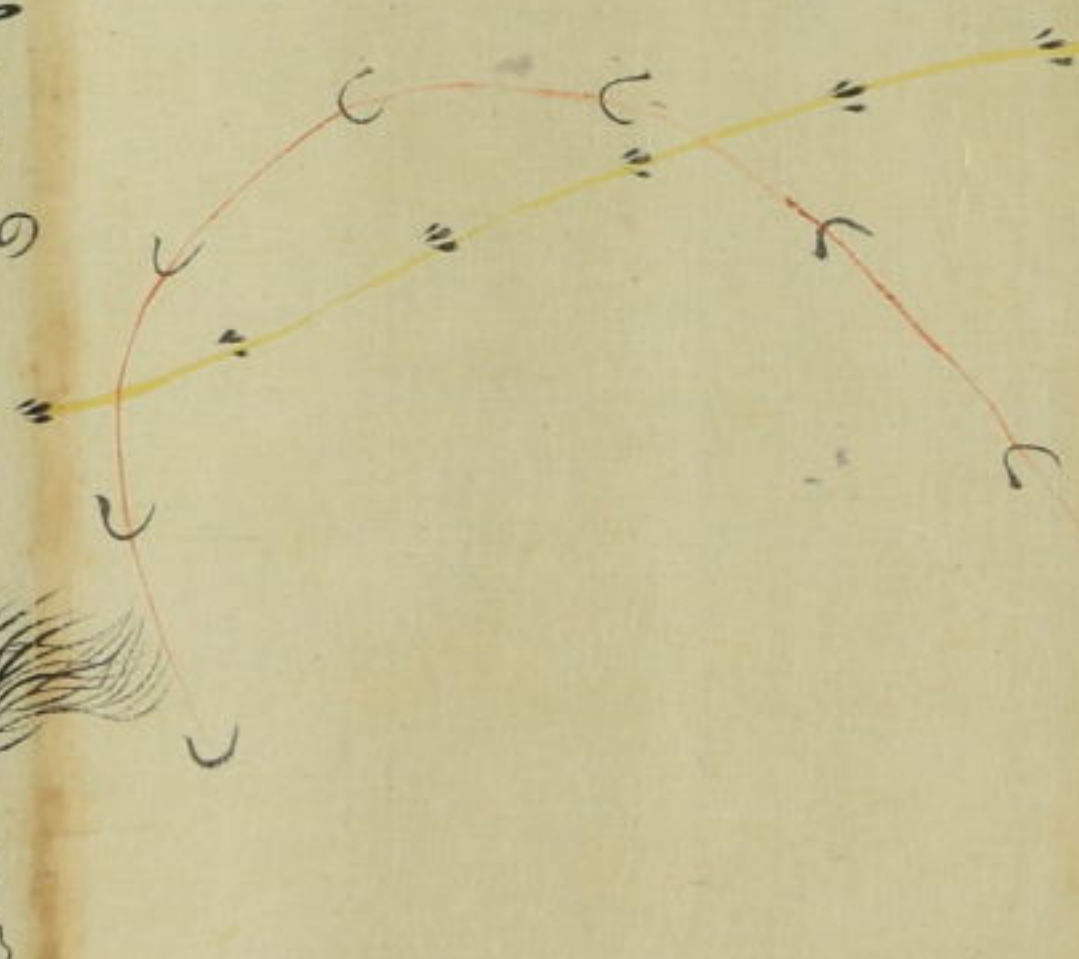




一 すとらひちた馬の道に竹がたハ  
 東へ折れりてさうのまの道  
 にとりひて折るるまの能  
 ことしとまのち行く物  
 尾さう馬の道に  
 捨たのまの道



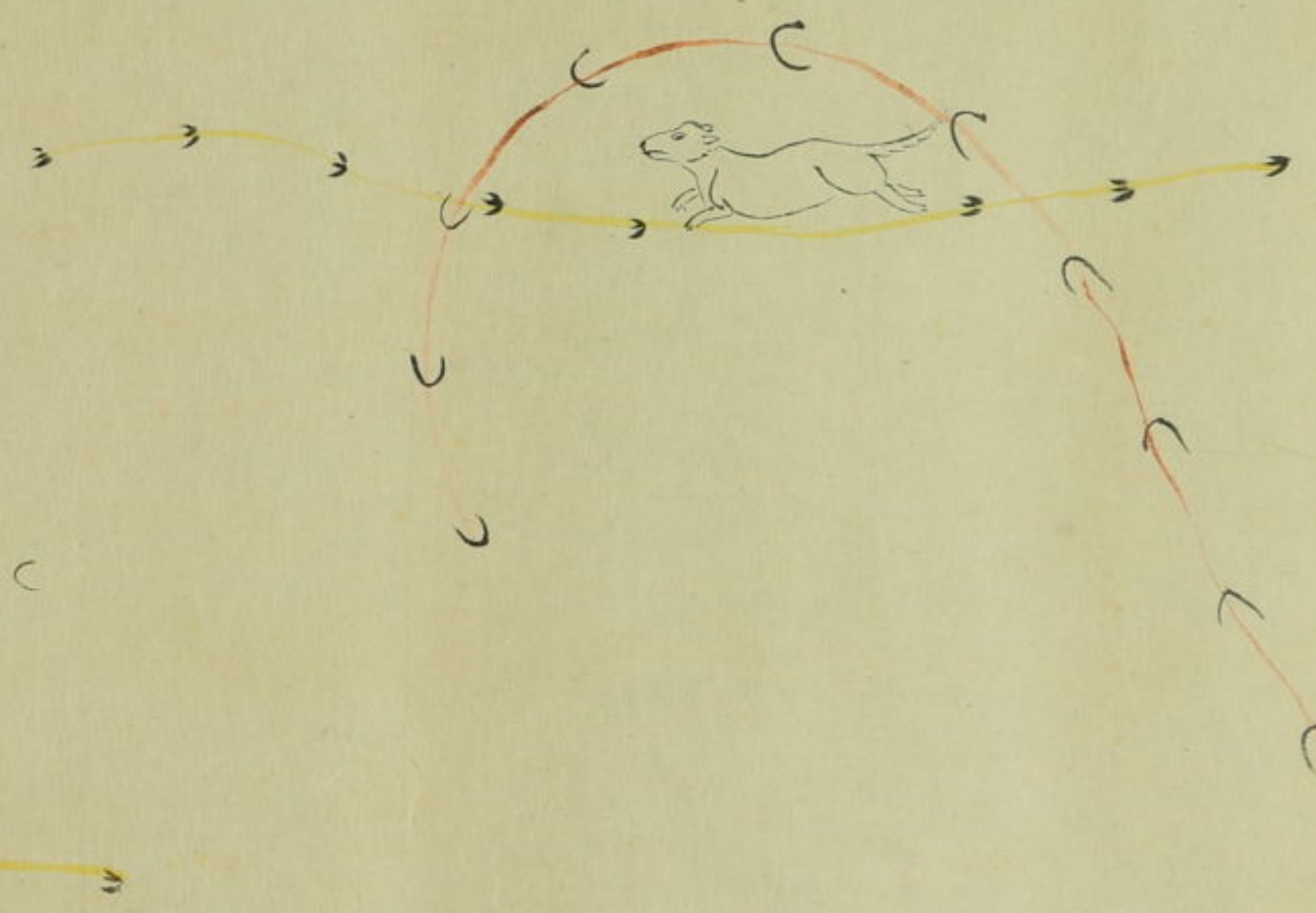
一 すとらひちた馬の道に竹がたハ  
 右を左のまのち  
 他大の右に折れ



一 すとらひちた馬の道に竹がたハ  
 如を折れりてさうのまの道  
 にとりひて折るるまの能  
 ことしとまのち行く物



一 馬の歩行は右足を大どりの  
 如く歩くが如くは左足を  
 歩くより大どりに歩くは  
 歩くより大どりに歩くは  
 歩くより大どりに歩くは



一 馬の歩行は右足を大どりの  
 如く歩くが如くは左足を  
 歩くより大どりに歩くは  
 歩くより大どりに歩くは  
 歩くより大どりに歩くは



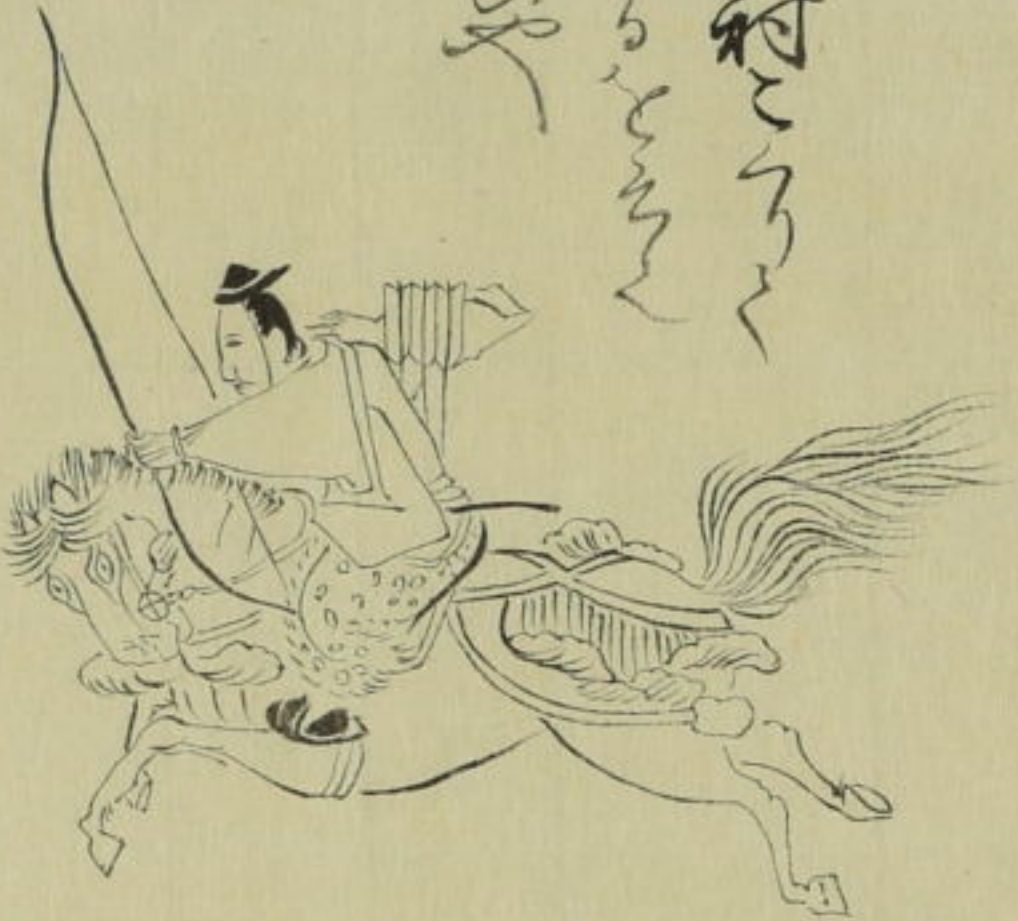
一 馬の歩行は右足を大どりの  
 如く歩くが如くは左足を  
 歩くより大どりに歩くは  
 歩くより大どりに歩くは  
 歩くより大どりに歩くは



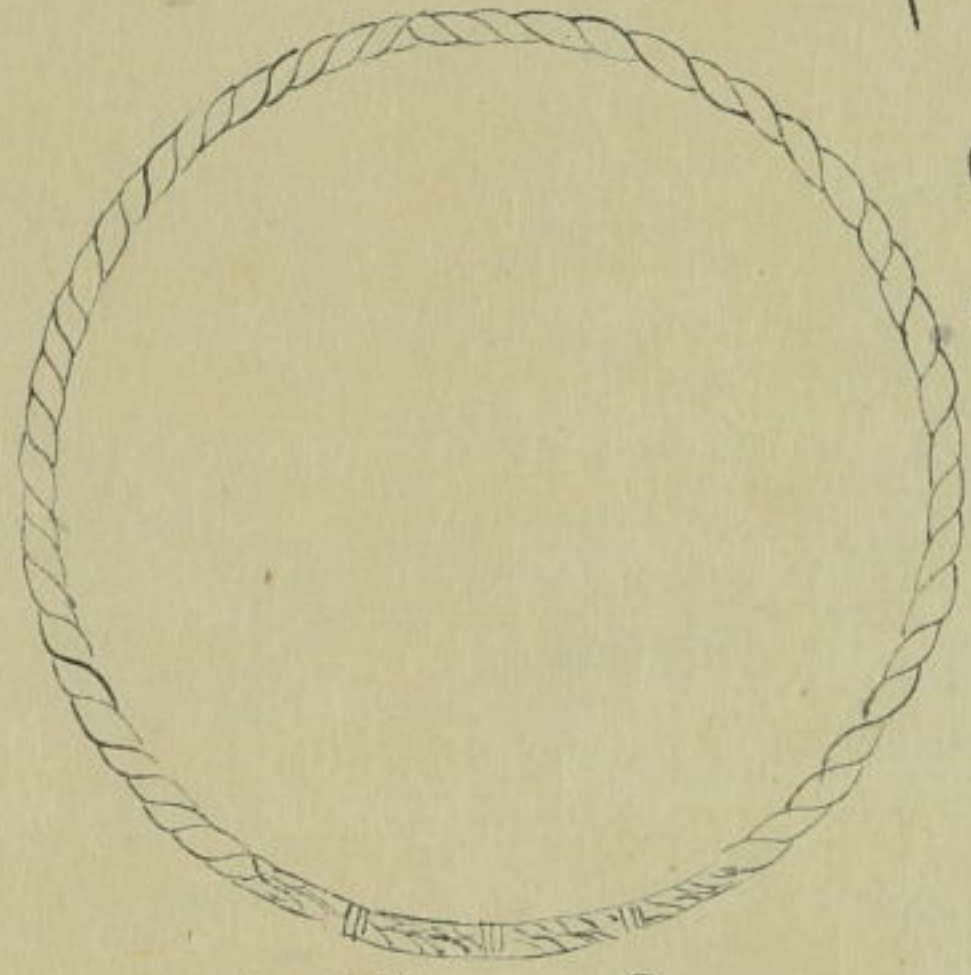
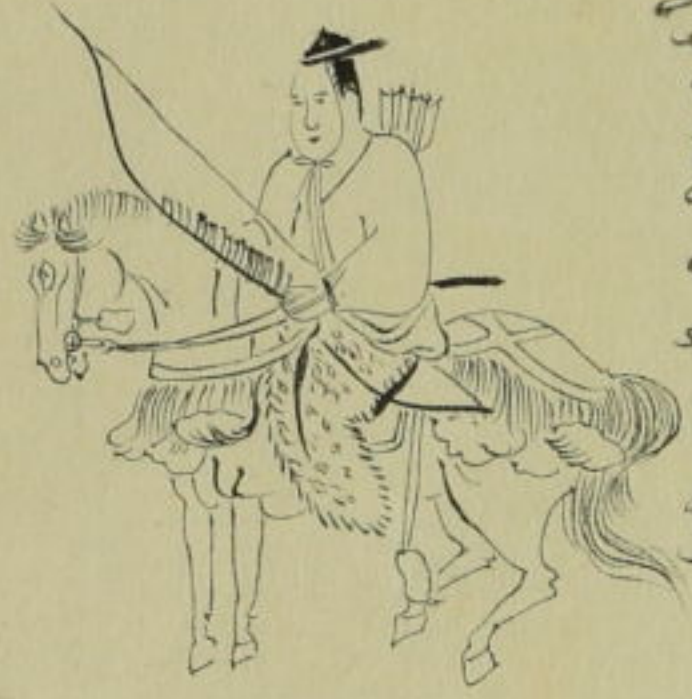
一矢下小治とてや六  
川自あらしめし梅  
まうたの事しん



一矢下小治とてや六  
川自あらしめし梅  
まうたの事しん

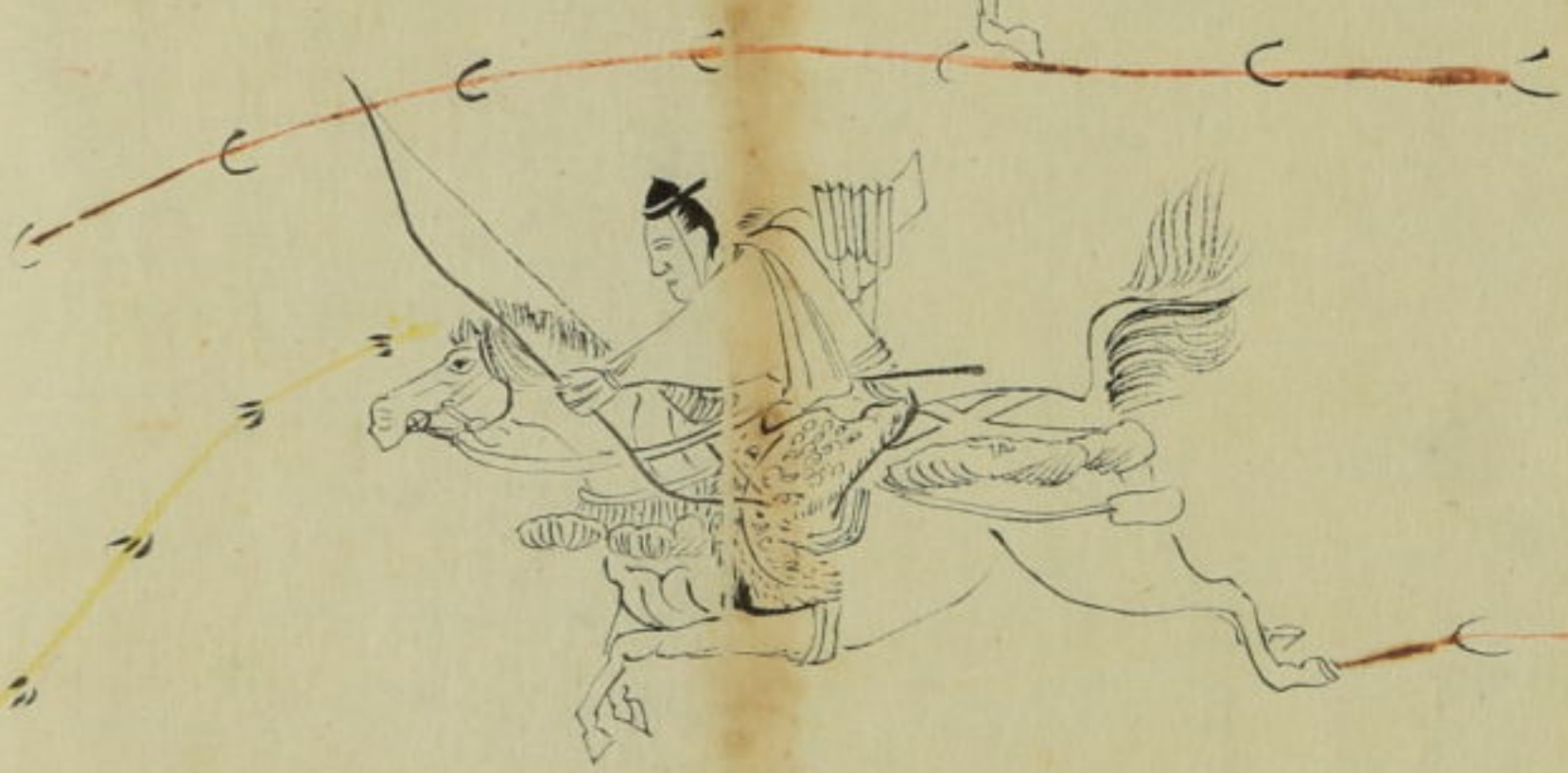


漫小まゝ休時ハ出物ハノ方  
馬とまゝまゝ



馬とまゝまゝ  
馬とまゝまゝ

外み廻りてあつた  
拾はハ初もあつた  
おつたハ初もあつた  
おつたハ初もあつた  
おつたハ初もあつた  
おつたハ初もあつた



大正七年三月六日



つ 如新出つる能く



一 自給する用事ありてかき取  
向く馬に出す喜ありしは  
とほくへ一随分おぼへて  
面敷(白)ぬれぬす色一他  
馬よりて心なすおぼへて  
新とるる物にてまゝ  
方(新)す色一



女(新)の(新)打回  
あつたまゝいふ  
いふ何れ  
物す(一)日(新)事

この(新)頭(新)事  
同(新)事

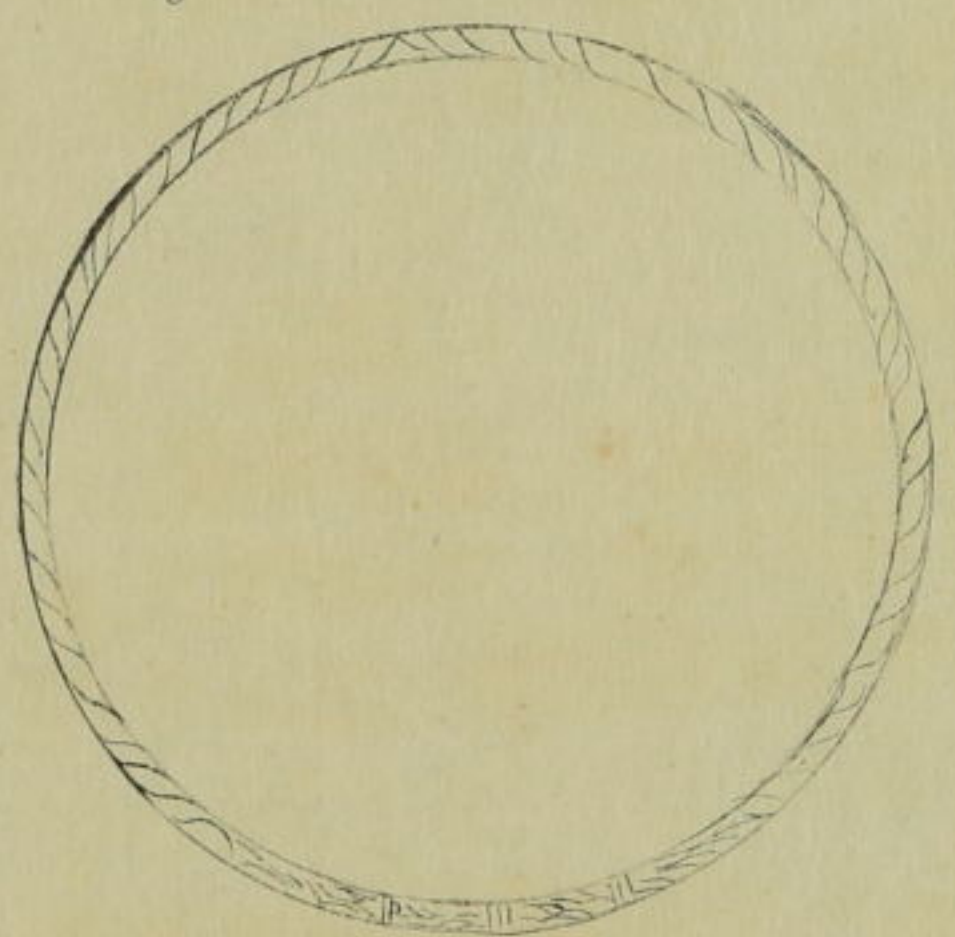


七(新)事(一)足(新)事



一 外に遊んでしや阿繩持者  
るを引物を打つ物にして打時

引目頭やふ片ふりまゝ打  
とく強下へたをすて打通す  
先礼多し捨てもおくは阿繩  
けはくし物取のふりく歌  
おろす油をさして打ぬき  
役たす阿の初めと捨た  
儀と物取もなる  
おろす物



外より打ぬ極物も進んてしや  
外に遊んでしや阿繩持者  
るを引物を打つ物にして打時  
引目頭やふ片ふりまゝ打  
とく強下へたをすて打通す  
先礼多し捨てもおくは阿繩  
けはくし物取のふりく歌  
おろす油をさして打ぬき  
役たす阿の初めと捨た  
儀と物取もなる  
おろす物



外より折廻り極小物も進みしつらふ  
しつらふ物も進みしつらふ物も進みしつらふ  
矢の獲り起るさしつらふ物も進みしつらふ  
わくめはつらふ物も進みしつらふ



此一卷可為秘者也

此一巻ハ伊勢守西行法師の御書  
ひそひそしりし御書也  
御書也

多作の御書也

の御書也

女一軒、何等なる事か  
ひらきつゝ、思はず  
かゝる事、何れに  
なり

多分の事、仲夏、  
ハ、幡を  
か







3645  
773

犬追物品位騎制

①犬追物品位騎制  
上卷下卷  
犬追物品位騎制  
上下元



本間文庫





22  
8645  
173

